

慣用句シリーズ

ここでは毎月、覚えておきたい慣用句・ことわざを取り上げます。みなさんはどのくらい知っていますか？

慣用句

『たなに上げる』

意味: 自分に不都合なことや、不利なことをそのままにしておくこと。

ひとこと: 棚の上に物を上げたままという意味から来た言葉。

使い方: かれは 自分のことはたなに上げて、人の失敗を責める。

『玉にきず』

意味: ほかとはとても立派なのに、ほんの少しだけ欠点があること。

ひとこと: 漢字では”玉に傷“。

使い方: 彼はとても素晴らしい人物だが、おとなしすぎるのが玉にきずだ。

ことわざ

『知らぬが仏』

意味: 嫌なことでも知らないでいると、平気でいられること。

ひとこと: 本人だけが知らないでいることを、からかって言うこと多い。

使い方: 弟がおかずをつまみ食いしているのに、母は知らぬが仏で笑ってテレビを見ている。

『好きこそ物の上手なれ』

意味: 何事も好きだと熱心にやり、熱心にやるから上手になるということ。

ひとこと: 対義語として『下手の横好』がある。

使い方: 好きこそものの上手なれで、彼のサッカーはどんどん上達している。